

かまくら 女性史の会 Newsletter

第 121 号

2024 年 11 月 16 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

◀ 新紙幣発行によせて ▶

第二次世界大戦、日本の敗色がただよい始めた昭和 20（1945）年 7 月下旬。私は満州国新京の造幣局で 10 日間の勤労奉仕をした。

高等女学校が夏休暇に入った直後、2 年生から 5 年生まで、各学年 2 名の計 8 名が教師に引率されて造幣局に入り、新札を数え束ねていたのである。巨大な巻紙が輪転機に装着されると、印刷機へと流れ、巻紙全体に隙間なく 100 円札が並び、裁断機を通過して手のひら大の札になり、ベルトコンベアーに乗って、私たちの目の前に運ばれてくる。それを 100 枚単位に数えて帯封をかける。切断直後の紙幣は不用意に触ると手指の皮膚が切れる。私の左右に座っているベテランの女性職員が、傷をつけない取り上げ方や数え方を教えてくれる。ベテラン職員の作業の速い事にも驚いた。

生まれて初めて目にする大量の高額紙幣に圧倒されて、なかなか手が出ず、やっと掴めたのはせいぜい 20~30 枚、初日は極度の緊張で昼食も喉を通らなかった。指先の作業は習うより慣れろで、1 週間もすると上達した。1 掴み 100 枚で美しい扇形にひろげられ、右手で要を押さえ左手で 5 枚ずつ 20 回数えられると、とても嬉しかった。

高額紙幣も単なる紙となって、8 名は事故もなく皆勤で 10 日間の勤労奉仕が終わった。造幣局では弁当（おかずは梅干一個のみ）持参の私たちに毎日、豚肉沢山、おかわり自由の豚汁が供された。何と美味しかった事か。食べ盛りの私たちは皆おかわり所望で大満足の楽しく嬉しい勤労奉仕であった。7 月 30 日に奉仕は終り、8 月 15 日は敗戦の日。そして 22 日、満州国は消滅した。学校も日本の手から離れ、誰とも言葉を交わせず別離となった。

この度の新紙幣発行で、はからずも 79 年も昔の造幣局の事を思い出した。あの大量の紙幣はどうなったのであろうか？今回私は 8 月 6 日に初めて新紙幣を手にした。「津田梅子」の 5000 円札である。タクシーの釣銭の 5000 円札を手にして、日本赤十字本社の情報プラザに入ると、拡大された新紙幣が入口の壁面に展示されていた。「渋沢氏」は日赤創設時、資金面での多大なる援助、「津田姉」は日赤のナースに英語を教え国際救護に助力。梅子を師とした事はナースの誇りでもある。「北里氏」は日赤の医療の向上に多大なる貢献とあり、予期せぬ情報であった。梅子は鎌倉にもご縁のある人である。日赤との関係は後日に譲る。

新京造幣局で体験した札束の触感をすっかり忘れていたが、何かなつかしい。はるかなる昔のことであるが、もう一度、今度は自己の所有物として蘇ってくれぬものか。見果てぬ夢である。

2024 年 11 月 1 日

かまくら女性史の会会員 山根 信子

《例会記録》

2024年10月22日(火) 13:00~16:50

鎌倉市中央図書館 多目的室 出席者5名

- 1) NL121号、122号の巻頭文他担当確認
 - 2) F☆L113について
- ・市の「広報」掲載記事のタイトル考慮
 - ・展示原稿の進捗状況



★シリーズ私たちの「戦争体験」No. 45

「広島市の被爆体験を鎌倉で語り継いで」④

話者 影山邦子 聞き書き 平田恵美

○似島(にのしま)へ逃げる 2

姉(2番目)は死亡者名簿にありました。遺品には、髪が泥でかちんかちんになっているのが少しと下着の一部が粗末な封筒に入れてありました。遺体はどこにあるかわかりません。島の小学校の校庭には死体が山のように積み上がっていました。えみちゃんがまだ息があるから、担架(戸板のようなもの)に載せて、町なかは歩けませんから川をのぼって、家の近くにきた時、姉(一番上の)がポーンと飛び降りて、「お母さ〜ん、えみちゃんが帰られましたよ」と呼ぶとえみちゃんのお母さんがけがをした身体で言うようにして 川のそばまで来られました。お母さんの声が聞こえたかどうか……。一年後に市役所の人に来られて、平和祭をやるので話してくださいといわれて、母はわーと泣き出し、「あの時のことは言わせないでください」と言ったので、市役所の人が「もういいです、いいです。」と言って帰りました。

○入市被爆

私は、学童疎開をしていたので、何も知らされていませんでした。親戚のお兄ちゃんが迎えに来てくれたので一緒に帰ったんです。「入市被爆者」の手帳を持っています。原爆投下から2週間以内に爆心地から2キロ以内に入った人、そのために被爆した人に出されます。川口町の家が3キロ離れたところにあり、そこで暮らしましたから直接被害を受けませんでした。「被ばく者手帳」を持っています。「入市被爆」と書いてあります。

・次回は幼稚園、保育園に携わった女性達を取り上げる 丸エキ、梶田三四他

・27日10:00~16:30 中央図書館で展示準備

2024年11月5日(火) 13:00~16:30

NPOセンター鎌倉 2階会議室 出席者5名

- 1) F☆L113 展示原稿の読み合わせ
- 2) ナデジタ・パヴロバの資料と話の提供を受け12月12日、提供者在館の「婦選会館」訪問予定



★2024年衆議院議員選挙が終わって思ったこと

2024年10月27日、衆議院選挙が行なわれ、与党は465議席中215議席にとどまり、過半数割れとなった。女性は候補者総数1344人中314人(23%)、当選者は73人(16%)で、ともに過去最多であった。しかし2022年の参議院選挙では女性当選者の割合が28%であったことを思えば「減ってしまった」感じがする。

政党別の女性候補者、当選者の割合は野党が高く、与党が低い。また地域別に見ると、大まかに言って東日本が高く西日本が低い。この傾向は22年の参院選と変わらない。ではなぜ12%も減ったのかと思い小選挙区に注目してみた。全国的に小選挙区毎の女性候補者数は0か1という所が多い。2人以上立候補した選挙区は例えば東京では30選挙区中12であった。例外的に島根では2選挙区6人の候補者のうち5人が女性だった。それについて地元政界の重鎮(男)が「女ばかり」と批判したため、テレビで全国に放送されてしまった。反対に秋田、富山、長野、鳥取、佐賀の5県では全候補が「男ばかり」だったが全国報道はされなかったように思う。当たり前すぎてニュース性が無かったのだろうか。当選者はどうかというと、四国の合計10選挙区で女性0、中国(合計17区)と九州(合計30区)で各1人、近畿も2府4県の合計45選挙区で1人(高市早苗)であった。ショックを受けた。この小選挙区問題をどうにかしないと女性代議士は増えていかないように思った。(西)

F☆L113 12月1日(日)・2日(月)10時~16時
於：鎌倉市中央図書館 ぜひお出かけください
11月27日(水)10時~ 展示準備 中央図書館